

切磋琢磨して練習を重ね、優勝を目指す



盛岡市内一周継走大会のチームメンバー。前列左から、清水畑永和さん(3年)、五十嵐玲司さん(3年)、松村颯杜さん(3年)、川村愛斗さん(3年)、千葉友太さん(3年)後列左から小原典子監督、渡辺太河さん(2年)、山下颯馬さん(3年)、里舘陸さん(2年)、高橋洋之監督

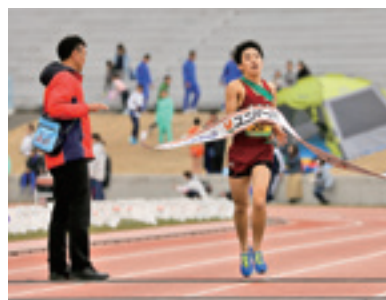
第71回盛岡市内一周継走大会 中学校男子の部 準優勝 西根中学校 特設駅伝部



2走川村さんから3走松村さんへたすぎが渡ります(写真提供:西根中)

「学校の新たな歴史。みんなよく頑張った」と選手の力走をたたえて喜ぶのは西根中学校特設駅伝部の小原典子監督。4月16日、盛岡市の県営運動公園陸上競技場を発着点に開催された第71回盛岡市内一周継走大会中学校男子の部に特設駅伝部が出場し、県内117校中、同校として過去最高の準優勝に輝きました。

選手らは、野球、バスケットボール、ソフトテニスの各部で活動しながら特設駅伝部に所属し、大会に向けて毎



ゴールしたアンカー清水畑さん(写真提供:西根中)

朝練習を積み重ねてきました。同大会では、1走千葉さんから徐々に順位を上げ、4走五十嵐さんは区間トップとなる5人抜きの力走で4位に浮上。アンカーの清水畑さんは、中盤で一時トップとなる力走を見せ、優勝した福岡中と最後まで競いました。

部長を務める川村さんは「9月には、岩手地区大会や県大会があるので、チャレンジャー精神で練習を積み、優勝を目指したい」と雪辱を果たすことを誓いました。

編集後記

▽八幡平ドラゴンアイをご存知ですか?5月中旬ごろ、鏡沼の雪が溶ける瞬間、竜の目に見えるところからそのように呼ばれています。来季は、よりベストなタイミングで狙いたいもの。私、約20年ぶりに広報カメラを手にしました。(香)



八幡平ドラゴンアイ(5月22日撮影)

▽安比高原ふるさと倶楽部の取材で「中のまきば」に行きました。芝草原が広がり、あちらこちらで鳥のさえずりが聞こえ、自然に癒されました。別の日に何となく、自然学習をするために首都圏から小学校の児童たちが訪れて、とてもにぎやかでした。ふるさと倶楽部の人たちの地道な活動が背景にあるのだと思うと胸が熱くなりました。次は4歳の息子を連れて行くと思います。(竜)

▽県内の市町村の新人広報担当者を対象とした研修会に参加してきました。研修では取材の心構えや編集技術などを学び、夜は懇親会で交流を深めました。こうして、つながりが持てたのも何かの縁。この縁を大切に、今後も励みし競い合って、住民に必要とされる広報紙を目指してがんばっていきましょうと気持ちを新たにしました。(多)